

Densho Bato

でんしょ鳩



公益社団法人
北九州市障害福祉ボランティア協会
〒804-0067
北九州市戸畑区汐井町1-6 ウェルとばた6階
北九州市立東部障害者福祉会館内
TEL 093-882-6770 FAX 882-6771
E-mail:XLZ02133@nifty.ne.jp
URL:http://www.ksvk.jp/
◇郵便局振替口座/福岡 01740-4-8846
◇福岡銀行 戸畑支店 普通口座/2130527
公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会

◇ボランティアコーディネーションについて考える 2~3P

事務局 鳥居 千里、船寄 靖子

◆わっしょい百万夏まつり! 賑わいあふれた「ふれあい広場」 4P

わくわく 宮崎 淳子

◇2016 街に出て行こう! プロジェクト 4P

防災を通じて、障害理解を深めよう

実行委員長 榎 正寿

◆ボランティア物語 84 5P **好評 連載中!!**
『痛風の旅』宮崎 浩

◇サマースクール始まりました! 5P

事務局 酒井 貴史

◆MYフレンド 6P

パンボラネット 村上 郁夫

◇北九州市福祉のまちづくりネットワーク 7P

リレーレポート③

2cm・傾斜・凹凸の三重苦

福岡県脊髄損傷者連合会 北九州支部 白川 長廣

◆追悼 須保 絹江さん 7P

◇協会カレンダー 8P



座標軸

また一つ、巨星が逝ってしまいました。七夕の日に、大往生をとげられた永六輔さん。故坂本九さんの歌った「上を向いて歩こう」は誰しもが口ずさむことができる歌で、今も勇気を与えてくれます。本当に、かけがえない方を失いました。永さんと云えば、この北九州市にとっても縁の深い方です。ご記憶の方も多いと思います。1972(昭和47)年11月29日、文部省(現 文部科学省)心身障害児教育視察で渡欧され、その帰路の途中、モスクワでの航空機事故に遭われ不運な生涯をとじられた故 野杉晴男先生のことです。特殊教育に尽力され、多くの知的障害児に愛情を捧げられました。山田典吾監督「晴男のとんだ空を」ご覧になった方も多いのではないでしょうか。

ユーモアたっぷり、愛情豊かな演技、そして何より野杉先生役を引き受けられた永さんを忘れ去ってはいけません。ご冥福をお祈りします。(K.O)

ボランティアコーディネーション について考える!

去る6月25日(土)、大野城市の総合福祉センターで「ボランティアコーディネーション力検定」が開催されました。

ボランティア協会からも、鳥居と船寄が朝から夕方まで直前研修を受講し、その後、検定試験に臨みました。

この研修で考えたこと

鳥居 千里

この検定試験の目的は、「ボランティアの価値を理解し、ボランティアコーディネーションに関する知識とスキルを身につけた人材を幅広く養成すること、地域社会および各自の所属する組織、その他さまざまな市民活動の場面においてボランティアコーディネーションの力が発揮されることにより、この機能についての認識が高まり、幅広く普及していくこと」です。

私は、ボランティア協会ですら働き始めて一年とちよつと、この直前研修を受講すること、今まで迷つたり、悩んだりしながら、同じ職員やボランティアに教わって、手探りで携わっていたボランティアコーディネーションについて、何らかの道筋を見つけたように感じました。

研修の中で繰り返し言わ

れていたボランティアコーディネーション力とは、「ボランティア活動を理解してその意義を認め、その活動のプロセスで多様な人や組織が相互に対等な関係でつながり、新たな力を生み出せるように調整することで、一人ひとりが市民社会づくりに参加することを可能にする力」です。

ボランティア活動の原則として「自発性」「公益性」「無償性」がありますが、これは言いかえると「やる気」「世直し」「手弁当」となります。ボラ協ではこれに「先駆性」を加えています。それはボランティア活動が全体の福祉の向上ではなく、それぞれのテーマや課題を選び、それに応じた多彩な取り組みを新しく生み出していくからです。

私が、はじめにコーディネーターとして直面した問題の一つは、「ボランティアが集まらない」ということです。

ボランティア活動は「自発性」つまり自ら進んで役割や責任を引き受ける「やる気」に基づく活動です。多くの人は機会があれば何らかの役に立つことをしたいという欲求を持っています。でも実際には、堅苦しいイメージや「何をすればいいかわからない」などの情報のバリエーションがあり、活動につながりません。それを取り除くた



めにこの研修で学んだことは、まず参加しやすいプログラムを作ること、広く情報を発信すること、多くの方に呼びかけていくことです。出席者に発言を求めたり、

実際に体験したりすることで、主体的に参加する意欲が高まっています。何かできることがあることで、逆に「やる気」が生まれます。私は活動がある日には、前もっていろいろな準備をしています。逆、逆に準備しすぎるとボランティアがお客様になつてしまい、相手を信じてゆだねることも大切だと聞いて、目から鱗が落ちました。

また現代社会は、人と人とのつながりが薄れていく「孤立化」の問題があります。私自身ボランティアとどう関わっていけばいいのかわからず、人に頼んでは迷惑になるのではないかと遠慮したり、人と向き合つて話をするよりパソコンやスマートフォンを見ている時間の方が増えていたりします。いざというときに支援を受けると聞きました。人と人とのつながりを生み出すには、いい意味での「おせっかい」、

「声かけ」をしていくことが大事になります。一歩踏み出すには勇気が必要ですが、何かしたいけどどうすればいいか分からない、そのきっかけを待っている人がいるかもしれないと信じ、声かけして、きっかけを作っていきたく思います。

ボランティアコーディネーターの役割は「つなぐ」ことです。依頼者とボランティア、ボランティアとコーディネーター、人と組織などを対等につなぎ、それぞれの背景や気持ちを時には翻訳したり、代弁したりして、新しい関係を生み出し、いく、私もそれができるよ

になりたいと思います。

ボラ協の大切な考えに「ともに」があります。障害のある人もない人も、対等に「ともに」、安心して暮らしやすい社会を目指していくというものです。ボラ協に入職してこの「ともに」という言葉を初めて知った時

無限の想像力

船寄 靖子

私たちボランティアコーディネーターはボランティアを必要とする人とボランティア活動をしたい人の調整をしている。

ボランティアを必要とする人とボランティア活動をした人、同等に繋ぐことは簡単に見えて難しい、それは私達の三言でお互いの立場に優劣をつけてしまうことも有り得るからだ。

少し前の話になるが、車いすユーザーの女性から外出支援ボランティアの相談があった、相談を受けた時になんとなく私の中ではボランティア活動者のイメージが固まっていたが、依頼者から「若い女性と出掛けたい」と言われた。

平日の日中に動ける若い女性がなかなか居ない現状も話し、「どうして若い女性と外出したいの?」と尋ねてみた。

そこで帰ってきたのは「友達と外出する感覚で買い物に行きたい」との思いだった。誰が相手でも良いから『外出がしたい』のだろうとイメージを持っていた私にとっては意外な三言だった。



者もショッピングやランチを楽しむ友達と外出したような時間を過ごすことができました。

最近の学生は実習やバイトなど本当に社会人顔負けの忙しさ、他の活動がいつも今回のようにうまく調整できるわけではない。平日のボランティア活動は活動者が見つからず調整ができず依頼をお断りすることも少なくない。

ボランティアの調整を行う時、いつも入職当時に職員研修で聞いた言葉が頭の片隅にある「ボランティアは安価な労働力ではなく、無限の想像力」今回のボランティアコーディネーター力

この活動はボラ協と関わりのある大学の先生に依頼者の思いを話して学生さんへの呼びかけを行った。まだ新学期前だったこともあり活動者が見つかった。依頼

しまい次の活動に踏み出せなくなってしまうこともあった。

それでもボランティアだからこそ成立する活動もある、依頼を受けた際に職員間で「ボランティアが見つかるかな?」と話すことも何度かあったが、私たちが難しいのでは?と感じる活動ほどボランティアは依頼者の気持ちに寄り添いやすいのか声掛けをしなくても活動者が見つかることもあった。そんな時にボランティアは「無限の想像力」や「共感で動く」優しい思いのある人達だと再認識する。

検定試験の講義の中でも説明があった言葉だ。ボランティアはその活動を仕事として行っている人ではないので小さな失敗をすることもあるし、活動の中で依頼者との意思の疎通が上手いかず活動に行き詰って

ボランティア協会は、事務局長と3人の職員が主にボランティアコーディネーターを行っている、それぞれ職員は個性や得意分野があるのでそれを活かしながら、依頼者と活動者、お互いが活動を通して実りある時間を過ごして貰うお手伝いをしていきたいと思った。

今年も熱風シャワー降り注ぐ8月6日・7日の2日間、わっしょい百万まつり「ふれあい広場」が開催されました。福祉事業所など計14団体がそれぞれ、飲み物や食べ物などを販売し大いに賑わいました。

市内の企業の方や市の新人職員の皆さんがボランティアで応援に来てくださりBOCCHIのみんなもいつも以上に張り切っていました。冷たいジュースや生ビール、餃子、綿菓子の販売をし、少し暗くなる頃には、ひかるおもちゃも登場です。綿菓子は、気が付けば長蛇の列になっており近隣のテナ

トの方々にご迷惑をおかけ致しました。

初日のボラ協の障害理解啓発イベントコーナーでは障害福祉ふれあい啓発事業の

**わっしょい百万夏まつり
賑わいあふれた「ふれあい広場」**



あふれる高校生
のパワー炸裂！
AIの「みんなが
みんな英雄」を
テントの事業所

「街に出て行こうプロジェクト」の一環として、障害福祉に関する展示やお客さん参加型の防災クイズ、視覚障害者のガイド体験や非常食の試食などが行われ、災害時にはどういうことが困るのかなど考える機会になったのではないのでしょうか。

恒例?となった高校生ボランティアサークル「のぼら」によるフラッシュモブでは、若さのみなさんや近くにいたお客様も足を止めて拍手なども加わり、みんなで歌ってさらに盛り上がり「ふれあい広場」が一つになった瞬間でした。

今年もいつものように暑くて人も多く大変で忙しかつたですが、ケガもなく事故もなく無事に終えることができましたことに感謝です。
(わくわく 宮崎 淳子)

**2016 街に出て行こう! プロジェクト
防災を通じて、障害理解を深めよう
第1回イベント開催!**

快晴! 猛暑の中、暑さに負けず、8月6日、わっしょい百万夏まつり「ふれあい広場」で、第1回イベントを開催しました。真つ昼間の炎天下にもかかわらず、事故もなく無事に終えることができました。会場に

今年度、障害のある人たちへの支援の必要性を理解していたかどうかと、街に出て行こう! プロジェクトを発足。「障害福祉の課題を知る」「会員同士の交流」「街へ出て行き市民へ呼びかける」地域に暮らすみんなにかかわる大切な「防災」を通じて、障害理解を深めることをテーマとして企画しました。初めての取り組み、



ヒヤヒヤ、ワクワクが混在する中で始まりました。

ふれあい広場の開場14時とともに、イベントが始まりました。ふれあい広場店舗紹介、防災を通じて学ぼう! どっちクイズ、防災ミニ講座、「非常食試食会」「視覚障害者ガイド実技」を行いました。お客様から、知らないことを学べて、よかつたとの声をいただきました。

障害があるなしにかかわらず、互いにできること、支援してもらいたいことを伝えることで、ともに生きる「共生」が始まるのではないのでしょうか? 出会うことでつながり、広がる。そんな街づくりのイベントに、出かけてみませんか? 目的はそれぞれで違うかもしれませんが、ともに生きる街に関心をお持ちの方の参加をお待ちしています。

(榎正寿)

行	平成28年9月10日(土) 10時~12時
委員会	場所 ウェルとばた6階
第2回	平成28年10月15日(土) 開催予定
イベント	会場 八幡中央町商店街広場にて
第3回	平成28年12月3日(土) 開催予定
イベント	会場 小倉駅3階エントランスにて

広告

車椅子バスケットボール チームメンバー募集!

希 BASKET BALL TEAM
足立クラブ
北九州足立クラブ
CORE Corporation

自分を信じて!
仲間を信じて!

KYUSHU DOLPHIN

CORE Corporation 有限会社コアは、上記バスケットチームを応援しています

宮崎浩さんは、当ボランティア協会の理事です。このコラムは、宮崎さんの体験を通した思いをつづったものです。

ボランティア物語

-84-

痛風の旅

宮崎 浩

早朝、痛みで目が覚めた。右足親指の付け根のところ。この痛みは「痛風」。一年ぶりに再発したと直感した。こいつは、とにかく痛い。指の付け根を大きな釘でグリグリされているようだ。「やばい。今日は博多に出張だった」這うようにして布団から出て身仕度をした。気合と鎮痛薬をゴクリと飲み込み「いざ、博多へ」と威勢よく旅立った。右足のつま先が、少し地面に触れただけで激痛がはしるので、左足でケンケンしながらバス停に向かった。汗ぐっしりよりでバス停に着くと、すぐにバスが来た。扉が開いた。三段のステップを想定し思い切り跳ねた。「あれっ」ひよいと簡単に乗れた。バスは、ノンステップバスと書いてあった。

小倉駅。バスからピョンと降りたら、エレベーター、エスカレーターを乗り継いで改札へ。そしてまた、エレベーターに乗ると、あれよという間にホームに着いた。建て替え前の小倉駅では、障害者が電車に乗りようとする、まず駅に電話しておいて、駅事務室を訪ねて、駅員さんと暗い貨物用のエレベーターに乗ってホームへ行っていた。通りすがりの人を捉まえて車イスをかかえ階段を上ったことも何度かあった。身障トイレにあつては、防犯のために施錠されていた。ボランティア協会では、西鉄、JR、行政などに対して、障害者が使いやすいようにと、ずっと要望し続けてきた。それは今でも。痛風の旅で見つけた。ちょっぴり自慢したいこと。「普段、僕らが使っている便利になったところには、障害者とボランティアの熱い声があるんだぜ。」

サマースクール 始まりました!

こんにちは！春からボラ協で働いている酒井です。私が担当する仕事の中で一番大きなイベントである障害児の長期休暇対策事業「サマースクール」が始まりました。今年度は各特別支援学校での企画がなく、合同企画(全特別支援学校を対象とした企画)のみで、映画会が4回、プール遊びが2回、レクリエーションが2回の計8回の企画が行われます。まず7月26日に小倉のチャチャタウンで午前の部「アンパンマン」、午後の部「ファインディングドリー」と1日に2回映画会を行いました。この映画会では、大きな音や暗い場所が苦手な子どもたちのために配慮していますが、一人の男の子が怖いからと中まで入れずに入口でしががみこんでいました。しかし、ボランティアが優しく寄り添って勇気づけてくれたおかげで、途中から座席に座って最後まで観ることが出来ました。次は7月31日に障害者スポーツセンター「アレアス」でプール遊びをしました。水が怖くて最初は不安そうにしていましたが最後には楽しく遊ぶことができたと言っていました。怖い思いや苦手なことはなかなか消えないと思いますが、今回出来たことで少しずつでも克服できるような一歩進めたらいいなと思います。障害があることで制約が多くなり、外での活動が億劫になってしまふけど、このサマースクールの場を活用していろいろな出会い、発見をして楽しい夏休みを過ごしてほしいなと思います。私も初めてのサマースクールで不安だらけですが、子どもたちに負けないように後半も元気に頑張っていきたいと思っています。(酒井 貴史)

広告 明るく・元気に・前向きに! 困ったときはお互い様
業務内容 資料の電子化・データ処理・ホームページ作成・アクセシビリティ検証・企画・デザイン・印刷各種・各種コピー・大型カラー出力・安全標識作成
有化成フロンティアサービス
TEL093-643-4390 FAX093-643-4393
http://kfs.rsi.co.jp



—ボラ協と関わりが始まったのは—

はつきりとは覚えていませんが、十七年〜十八年前ワープロ「書院」にモデムを付けて通信するという講座に参加したのですが、それがボラ協主催だったと思います。

—仕事がそういう関係だったのですか—

プログラミングは仕事をすすめる上で必須でした。元々嫌いではありませんでしたが、ソフトウェア開発は会社に入っ

—その後の活動は—

障害者がパソコンを操作するのをサポートするボランティアの養成事業のお手伝いやボランティアサークル「パソコンボランティア」の活動等です。そ

の頃は週四〜五日ボラ協に来ていました。今も月一回行われているパソコンネットワークの相談会には出ています。

—パソコンサポーター養成事業はどうでしたか—

説明会に多い時は約百名の応募がありました。仕事を持つためのサポーター活動なので、動く人数を確保するため

に年二回養成講座をしました。たこともありませんでした。講座を受講した人はほぼ100%サポーターとして登録してくれました。

—サポーターに必要なことは—

パソコン技術はもちろんですが、障害を持った人はそれぞれ特性があり、コミュニケーション力が必要だと思います。

—今ボラ協で行っていることは—

ボラ協やボラ協に事務局を置いている障団連のデータを整理をしています。いろいろな事業のアンケートやボランティア応募をデータ化するシステム作り等です。プログラムの書き換えや新たな機能を



村上 郁夫さん

頼りになるパソコンのエキスパート!

を加えたり、時間がかかる作業です。ボラ協のスタッフが煩わしい仕事から解放され、より当事者にかかわることができたらいいなと思っていました。新しい考え方を入れやすいように五年ぐらい前にボタンタッチしました。今は月五回ぐらい手伝っています。

—趣味は—

ドライブです。特に目的はなく、例えば「虫が見たい」

とか、「おいしいものを食べた」とか思い立ってぷらっと出かけます。お店に階段があつたらどんなにいいお店でも入りません。以前仕事で横浜に住んでいた時は車で帰省していました。長距離運転は苦になりません。

—ご家族は—

八十歳の母と二人暮らしです。母はまだ現役で仕事をしています。母はまた現役で仕事をしていてとても元気です。家庭菜園で野菜を育てるのも好きです。今日も「ゴーヤジュース」を飲まれました。緑茶ではなく、庭にあるどくだみや数種のハーブをブレンドしたお茶がうちの日常的なお茶です。健康には気を遣ってくれます。食べ物に関しては自分に選択権は一切ありません。「軒隣に妹家族が住んでいます。妹や甥が頻繁に出入りし心強い存在です。」

聞き手 森山 幸恵

広告



SKC 会計グループ
税理士法人 SKC

税務代理業務 ・ 税務相談業務 グループ会社

〒806-0011 北九州市八幡西区紅梅二丁目9-16
TEL. 093-645-0129 / FAX. 093-645-0070
http://www.skc-tax.or.jp/

株式会社さかい経営センター 株式会社SKC計算センター
一般社団法人 相続・贈与相談センター北九州
(岩本英俊行政書士事務所)



追悼 須保 絹江さん

ボランティア協会の設立当初からの会員で、ボラ協のパンフレットの表紙に写真を使わせていただいていた須保 絹江さんが、梅雨も明けきらない7月にお亡くなりになりました。いつも明るく、「定期総会」や「みんなの研修会」に参加してくださいました。心よりご冥福をお祈りいたします。

須保さんの思い出を語り合う会を11月23日(祝)に行う予定です。詳しくは次号の「でんしょ鳩207号」でご案内いたします。

北九州市福祉の まちづくりネットワーク

(リレーレポート⑩)

2cm・傾斜・凹凸の3重苦

福岡県脊髄損傷者連合会

北九州支部 白川長廣

国の基準では歩道と車道
の間に設置されている歩道縁
石は、歩道と車道の境界を明
確にすることとともに、視覚
障害者とその境界を認識し
やすいように、2cmの段差を設
けることとしている。

3横断歩道等に接続する歩 道の部分等の構造

(1)歩道の構造

①水平区間

横断歩道等に接続する歩
道の部分には水平区間を
設けることとし、その値は
1.5m程度とする。ただし、
やむを得ない場合にはこ
の限りでない。

②車道との段差

歩道と車道との段差は、
視覚障害者の安全な通行
を考慮して2cmを標準と
する。

この段差は、視覚障害者が
歩車道の境界と認識でき、車
いす利用でも通行できる構
造であり標準的な構造とさ
れているが、高齢者がつまず
く要因となることや、自転車
やベビーカーがスムーズに利用
できない等、走行性の改善に
ついての意見もある。

また、この基準制定時と今
とは車いす使用者の様相
が変化している。すなわち電
動車いすには変化ないが手
動車いすの前輪は小さくな
り2cmの段差ではつまずきや
すくなっている。段差ととも
に傾斜があり、おまけに点字
ブロックの凹凸があつて車いす
使用者にとつてはとつともな
いバリアになる。

段差、傾斜、点字ブロックの
凹凸、それぞれ単独では大き
なバリアにはならないが、組
み合わさった時に危険なバリ
アとなるのである。

転倒した経験のある複数の
車いす使用者の障害者からの意
見を受け「まちネット」でも再

検討の必要があるのではない
だろうか。

確かに車いすで乗り越え
可能な段差は？という話し
合いをした経緯はあるが傾
斜や点字ブロックの凹凸との
組み合わせで話し合ったこと
はないはずである。

視覚障害者は2cmの段差は
生命線だと主張するが現状
の道路は横断歩道手前では
警告ブロックが設置されてい
るので判別可能な段差なしの縁
石でも良いのではないかと思
うのだがいかがだろうか？

数年前に訪れた鹿児島市で
はすでに無段差の縁石を設置
していたし、佐賀県も採用して
いる。最近では沖縄県が「ゆい
バーサル縁石」と銘打った無段
差の縁石を開発している。

また、無段差部分と視覚
障害者用に段差を残した部
分とに切り分ける方式を採
用している自治体もある。

北九州でも段差解消のた
めの方策を模索したいものだ
がある。

広告

平山精肉店

をよろしく!

創業68年

みなさまの応援で
がんばっています。

〒804-0061 北九州市戸畑区中本町7-13
TEL・FAX 093-871-4215

ご協力・ご提供ありがとうございました。(敬称略)

○ご寄付(公益社団法人への寄付は、寄付控除の対象となります)

大曲千代子 西村 直子

国際ソロプチミスト北九州―南 小倉ロータリークラブ

○使用済み切手・テレカなど

桐畑 頼子 公文真理亜 下田 猛 古橋千寿子

生き方のデザイン研究所 永犬丸市民センター

スピナ高見店 化粧品部 新ケミカル商事株式会社

有限会社コア 株式会社東和防災システム

八幡西区役所保健課 八幡西区役所保健福祉局

福岡県保護観察所 北九州支部

○未使用・書き損じハガキ

北村 英明 高橋 朱美

わっしょい「ふれあい広場」 ありがとうございました

ビール販売において株式会社宮熊様にご協賛いただきました。

★似顔絵作成★

泉 良穂



★バザー一品ご提供★

井上 賀世	大谷 直子	榎 正寿
鹿子嶋初美	島 友之	高橋 朱美
寺前亜希子	永井 久子	永松 玲子
西村 邦子	溯川ミチ子	松岡 法子
宮崎 初美	村山 彩	吉本 和子

国際ソロプチミスト北九州
 国際ソロプチミスト北九州-西
 国際ソロプチミスト北九州-南
 北九州市保健福祉局有志 (敬称略)

※たくさんの方々に事前準備から当日のお手伝いまで、ご協力いただきました。

協会カレンダー

8月

6日(土) 街に出て行くこうプロジェクト「地域出前交流事業①」

わっしょい百万夏まつり「ふれあい広場」

7日(日) 第35回福祉情報技術コーディネーター認定試験

12日(金) ボランティア市民活動センター運営委員会(竹田)

15日(月) 会報第206号発行

19日(金) 点訳・音訳ボランティア講座(船寄・鳥居)

25日(木) 障害福祉団体連絡協議会常任委員会

28日(日) 障害児長期休暇対策事業「サマースクール」最終日

29日(月) 第一回障害者差別解消支援地域協議会

手をつなぐ育成会評議委員会(古賀)

9月

14日(水) 常任委員会

15日(木) 余暇活動支援者連絡会

21日(水) 東部障害者福祉会館ふれあい広場実行委員会(竹田)

29日(木) 福祉のまちづくりネットワーク定例会

29日(木) 障害福祉団体連絡協議会常任委員会

10月

1日(土) 第13回北九州チャンピオンズカップ

国際車椅子バスケットボール大会ボランティア「研修会」

15日(土) 会報第207号発行

街に出て行くこうプロジェクト「地域出前交流事業②」

18日(火) 北九州ボランティア顕彰委員会(古賀)

22日(土) 第13回北九州チャンピオンズカップ

国際車椅子バスケットボール大会ボランティア「研修会」

30日(日) 東部障害者福祉会館「ふれあい広場」(協力事業)

